

多目的コホートにおける血液を用いた胃がんのコホート内症例・対照研究

1. 研究の対象

多目的コホート研究（JPHC Study）において、ベースライン時（コホート I は 1990 年、コホート II は 1993 年）に血液を提供した方を対象とします。

具体的には、岩手県二戸、秋田県横手、長野県佐久、沖縄県石川（以上、1990 年開始のコホート I）、茨城県水戸、新潟県柏崎、高知県中央東、長崎県上五島、沖縄県宮古、大阪府吹田（以上、1993 年開始のコホート II）の 10 保健所管内に、研究開始時点で居住していた地域住民約 14 万人のうち、研究開始時に血液の提供のある者が対象となります。ただし、がんの既往のある者、追跡開始後に不適格であると認められた方（外国人、対象地域外に居住、年齢不適判明者、追跡拒否）は除外されます。

2. 研究目的・方法

◇ 研究の概要：

多目的コホート研究（JPHC Study）において採取・保存されている血液を用いて、その後発症した胃がんとの関連を検討する研究です。

◇ 研究の意義：

胃がんの発症には多くの要因が関与していますが、従来より重要視されている食物要因および近年注目されている *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 菌感染は中でも主たる要因です。しかしながら、食物要因および *H. pylori* 菌感染と胃がんの関連についてもまだ不明な点が多く、検討の必要性が高い背景があります。ところが、食物要因および *H. pylori* 菌感染と胃がんの関連について血液データを用いて検討した研究は少なく、後ろ向き研究や横断研究の域にとどまっているものが多いのが現状です。本研究によって胃がんとの血液検査項目の関連が明らかになれば、血液検査結果による胃がんのハイリスクグループ同定・個別化予防に役立つ可能性があります。

◇ 研究の方法：

<研究デザイン>コホート内症例対照研究など

<測定予定血液検査項目>（すべて血漿を用います）*H. pylori* 抗体、CagA 抗体、Pepsinogen (PG) I, PGII, CRP, SAA などの感染・炎症状態を示すマーカー、ビタミン、カロテノイド、ポリフェノールなどの抗酸化物質、レプチン、c-ペプチドなどの肥満・糖尿病関連マーカーなど

◇研究の実施期間：2028年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ① 多目的コホート研究（JPHC Study）で収集した生活習慣アンケート調査情報等
- ② 多目的コホート研究（JPHC Study）で収集した血漿検体およびその測定値等
- ③ 多目的コホート研究（JPHC Study）で収集した生年月日、転出日、死亡日、全死因、がん罹患登録情報等
- ④ その他、郵送調査等において判明したがん以外の疾病既往情報や郵送追跡調査において収集した健康状態に関する情報等

4. 試料・情報の公表

◇情報の公表

研究の成果は、論文および学会等で発表します。

5. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報、知的財産の保護に支障のない範囲で、研究計画書、および関連資料を閲覧することが可能です。また、試料・情報が、当該研究に用いられることについて、対象者の方、もしくは対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。この場合も対象者の方に不利益が生じることはありません。

◇照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センター がん対策研究所 予防研究グループ内

多目的コホート研究事務局

担当研究者：澤田 典絵

電話 0120-220-510

ホームページ：<http://epi.ncc.go.jp/jphc/>

◇研究代表者/ 研究責任者

国立がん研究センター がん対策研究所

予防研究部 部長 井上真奈美